

「高等研究教育機関における工芸の創作・
教育の現状と、そのあり方」

研究年度・期間：平成9年度～平成11年度

平成9年度

研究代表者：藪 亨
(教養課程 教授)

研究ディレクター：福本 繁樹
(工芸学科 教授)

共同研究者：柳原 睦夫
(工芸学科 教授)
櫻井 忠彦
(工芸学科 教授)
伊藤 隆
(工芸学科 教授)
人見 政次
(工芸学科 助教授)
梅田 幸男
(工芸学科 助教授)
佐々田美雪
(工芸学科 助教授)
小野山和代
(工芸学科 講師)
奥田 右一
(工芸学科 講師)
南 和伸
(工芸学科 講師)
田嶋 悦子
(工芸学科 講師)

研究助言者：山口 道夫
(工芸学科 非常勤講師)
樋田豊次郎
(東京国立近代博物館
工芸課主任研究員)
横山 俊夫
(京都大学 人文研究所 助教授)
鷲田 清一
(大阪大学 文学部 教授)
グレン カウフマン
(ジョージア大学
テキスタイル科 主任教授)

平成10年度

研究代表者：藪 亨
(教養課程 教授)

研究ディレクター：福本 繁樹
(工芸学科 教授)

共同研究者：柳原 睦夫
(工芸学科 教授)
櫻井 忠彦
(工芸学科 教授)
伊藤 隆
(工芸学科 教授)
人見 政次
(工芸学科 教授)
梅田 幸男
(工芸学科 助教授)
佐々田美雪
(工芸学科 助教授)
小野山和代
(工芸学科 講師)
奥田 右一
(工芸学科 講師)
南 和伸
(工芸学科 講師)
田嶋 悦子
(工芸学科 講師)

研究助言者：山口 道夫
(工芸学科 非常勤講師)
乾 由明
(金沢美術工芸大学 学長)
宮島 久雄
(京都大学 教授)
金子 賢治
(東京国立近代博物館
工芸課主任研究員)
中村 錦平
(多摩美術大学工芸学科 教授)

平成11年度

研究代表者：藪 亨
(教養課程 教授)

研究ディレクター：福本 繁樹
(工芸学科 教授)

共同研究者：柳原 睦夫
(工芸学科 教授)
平金 有一
(工芸学科 教授)
櫻井 忠彦
(工芸学科 教授)
伊藤 隆
(工芸学科 教授)
人見 政次
(工芸学科 教授)
梅田 幸男
(工芸学科 助教授)
佐々田美雪
(工芸学科 助教授)
小野山和代
(工芸学科 助教授)
奥田 右一
(工芸学科 講師)
南 和伸
(工芸学科 講師)
田嶋 悦子
(工芸学科 講師)

研究助言者：山口 道夫
(工芸学科 非常勤講師)
鶴岡 真弓
(立命館大学文学部 教授)
中川 幸夫
(現代華道家)
橋本 真之
(金属工芸作家)

研究補助者：岡田さゆり
(大学院 助手)
奥野 利彦
(工芸学科 副手)
日野田 崇
(大学院 助手)

研究補助者：岡田さゆり
(大学院 助手)
安田 将晃
(工芸学科 副手)

宋 繁樹
(韓国弘益大学 教授)
(産業美術大学院 院長)
研究補助者：岡田さゆり
(大学院 助手)
播本 利恵
(大学院 助手)
宇野 絵美
(大学院 助手)

研究経過の概要

1) 講演会開催

研究会「研究計画設問」(発表：福本繁樹)、「大阪芸術大学工芸学科沿革・設置趣旨」(発表：櫻井忠彦) 大学院(工芸)研究室にて、共同研究員のみ参加。平成9年5月23日特別講演会「テクスチャー感覚」、鷺田清一(大阪大学文学部教授)芸術情報センターAVホール、学内一般公開、参加者百数十名、平成9年7月7日

日米ジョイント講演「草間喆雄 = Glen Kaufman」(岡山大学教授、ジョージア大学教授)芸術制作研究科(工芸)共催、芸術情報センターAVホール、学内一般公開、参加者約100名、平成9年10月30日

特別講演会「21世紀の風流」、横山俊夫(京都大学人文科学研究所教授)、12-21教室、学内一般公開、参加者約60名、平成9年12月5日。

特別講演会「オブジェ」、樋田豊次郎(東京国立近代美術館工芸課主任研究官)、紀泉閣、参加者は講演者を含めて共同研究員など11名、平成10年1月18日。

「鼎談・大学と工芸」開催。パネリストは、中村錦平(陶芸家・多摩美術大学工芸学科教授)、宮島久雄(国立国際美術館・館長)、柳原睦夫(大阪芸術大学教授)の3氏。芸術情報センターAVホールにて学内一般公開、参加者百数十名、平成10年6月26日。記録を出版物に投稿。

講演会「現代工芸の新世代」、金子賢治(東京国立近代美術館工芸課主任研究官)、香川県直島町のベネッセハウスにて開催。前日工芸学科主催の同氏による講演会と連動させた。平成10年11月7日。

講演会「芸術家、職人そしてデザイナー」、乾由明(金沢美術工芸大学・学長)後刻、同大学教員との懇談会、金沢美術工芸大学会議室、平成11年2月3日。

講演会「韓国繊維美術の現況」、韓国の弘益大大学校における授業や、教授の作家活動などについて、弘益大大学校産業美術大学院の宋繁樹教授、芸術情報センターAVホール、学内一般公開、参加者百数十名、平成11年5月26日。

セッション「大学と工芸 - 『装飾』をめぐって - 」、ゲストに鶴岡真弓教授(立命館大学・西洋美術史)を招き、同氏と本学教員の藪亨・山口道夫・柳原睦夫の4氏がパネリストをつとめ、共同研究者ら総勢16名の参加により懇談会を開催、京都・壬生武家屋敷、平

成 11 年 12 月 15 日。記録を出版物に投稿。

2) 懇談会、記録、投稿など

講演会の後、共同研究員により講師との懇談会を開催した。講演会との連動で、さらに議論の内容を高めることができた。おもに講演内容と、われわれの身近な、工芸創作の実際的问题や、工芸教育の問題につなげるようにつとめた。また録音、ビデオ撮り、録音テープの起稿、その校正をすすめた。それ以外に共同研究員のみで、研究会を開催した。講演会や懇談会の内容を録音、ビデオ撮影、写真撮影などにより記録した。また録音テープの起稿と、その原稿の校正をすすめ、その記録の一端を出版物に投稿した。

3) 資料収集

国内外の芸術系大学の「大学案内」「入学案内」「卒展カタログ」などを収集するため、とくに芸術系大学の多い日米英の三国の各大学に依頼状を発送。国内では『美術手帖』増刊号「アート・スクール・ガイド 1996」に掲載された約 190 の大学へ、アメリカは『Directory of MFA Programs in the Visual Arts』(by College Art Association 初版 1992, 改訂版 1996) 掲載の 198 大学へ、イギリスは『A Guide to First Degree and Post Graduate Courses in Fashion and Textile Design』(by Association of Degree Courses In Fashion and Textile Design) 掲載の 40 大学へ連絡をとった。結果、海外の約 70 大学、国内約 100 大学の資料を収集する。他にも大学問題の文献、個人作家のカタログなどの資料も収集。

4) 見学・研修会開催

岡山県立大学、金沢美術工芸大学、金沢卯辰山工芸工房、直島文化村ベネッセハウス、イサム・ノグチ庭園美術館(牟礼)など。

5) 学外・国際交流

海外からの訪日者 Greater Manchester Centre for Japanese Studies の Director Dr. Geoffery A Broad 氏、Duncan of Jordanston College の Norma Starszakowa 教授、ロンドン大学・日本文化研究所 Dr. Timosy Screech 氏、ロンドンのヴィクトリア&アルバート美術館学芸員 Lynda Hiller 氏、セインズベリ日本文化研究所(Sainsbury Institute for the Japanese Arts and Museology) Dr. Nicole Rousmaniere 氏らと面談。

共同研究者による海外活動がいろいろあった。ポーランドのウーチにある中央染織博物館や美術大学訪問(小野山)、オーストラリアでのファイバー・テキスタイル・フォーラム参加(福本)、シカゴ大学訪問(福本)、弘益大学訪問(福本)など。韓国の清州国際クラフト・ビエンナーレ審査参加(小野山)。その他、日本学術会議創立 50 周年記念シンポジウム「アートと社会」での発表(平成 11 年 6/19 福本)、平成 8 年度より 3 年計画ですすめられた、

日本財団主催の FORUM Em. Bridge 参加（福本、平成 9、10、11 年報告書発行）など。以上は共同研究員の自主的活動のほんの一端である。

6) 共同研究員の活動

共同研究員の国内外での作品発表・研究活動が種々あった。ここにその全貌を明記することはできないが、「実作」を旨とする当該研究活動の成果でもっとも重要なのは、各共同研究員の作品制作や教育活動に反映されるものだと考える。当共同研究計画は、理論的にまとまった成果を目的としたものではないことをご理解いただきたい。

研究成果について

「研究経過の概要」に記したことが、すなわち研究成果であるので、ここでは、それを繰り返さずに、その成果報告を公にできたものを記すにとどめたい。当研究計画の目的は研究活動そのものにあり、研究成果を発表することを含んでいない。しかし、当研究活動の成果をまとめた原稿を投稿する機会があり、出版物にそれが掲載されたため、その反響を得た。

特集 工芸教育研究会 企画・記録「鼎談・大学と工芸」『PORTFOLIO 采／綴 大阪芸術大学大学院芸術制作研究科 工芸 1998 - 1999』: 36 - 47。1999 年 3 月 20 日、大阪芸術大学 特色ある教育研究の推進「芸術の発表とその社会的実践」担当部局発行。パネリストは、中村錦平（陶芸家・多摩美術大学工芸学科教授）、宮島久雄（国立国際美術館・館長）、柳原睦夫（大阪芸術大学教授）の 3 氏。

「セッション・大学と工芸 『装飾』をめぐって」『PORTFOLIO 采／綴 大阪芸術大学 染織 1999 - 2000』: 70 - 77。2000 年 3 月 22 日、大阪芸術大学 特色ある教育研究の推進「芸術の発表とその社会的実践」担当部局発行。パネリストは、鶴岡真弓 立命館大学教授（西洋美術史）と、当研究計画の共同研究者の藪亨・山口道夫・柳原睦夫（進行）の 4 氏。

また、インターネットのホームページを 2001 年 6 月に開設し、研究計画の活動の一端を公開している。 <http://www6.ocn.ne.jp/~kogeiken/>

研究の反省

当該研究計画は本校でも初めての試みで、きわめて有意義な成果を残せたものと確信している。3 年間で数々の講演会やセッションを公開、その記録を出版物に投稿、研究資料を収集・蓄積、共同研究員による議論や懇談をはじめ、いろいろな研究・発表活動や、国内外の研究者との交流成果があった。限られた紙幅でその全貌を明記することはできないほどである。

しかし一定の成果を得たとはいえ、3 年間の限られた時間や予算では、当初の遠大な目標を十分達成しえたものとはならなかったとの反省もある。当研究課題「高等研究教育機関における工芸の創作・教育の現状とそのあり方」の背景には、「大学の大衆化」と「西欧的に偏重し

すぎた芸術（工芸）教育研究システム」という深刻な問題がある。1960年代以降、全国の芸術系の大学数、学生数、進学率、教員数が飛躍的なのびをみせた芸術系大学が、質的な変化をも余儀なくされたのか否かを検討する必要がある、教育の方法、教員の資格、「芸術のプロ養成か、教養としての芸術制作教育か」などが問われることになった。そして、「純粋美術と工芸、工芸・美術・デザインのちがい」「工芸教育の今日的意義」「芸術は教えることができるのか」などの基本的な問題について、研究活動を通じて考えねばならなかった。

本学では、教室・設備の充実化計画、通信教育部開設などが進み、教育内容改善への要求も高まってきた。情報化・国際化が先鋭化する近年の世界情勢への対応の必要などから、今後さらに、さまざまな角度から、工芸の教育研究に関するたゆまない共同研究計画の推進が望まれる。

文責：研究ディレクター：福本繁樹